



公益財団法人 日本環境協会
エコマーク事務局

エコマーク商品類型 No.140 認定基準書

飲食料品、化粧品、家庭用品などの容器包装 Version1.17

分類 D.PET ボトル(容器)

制 定 日:2007年 7月 2日
最新改定日:2025年 4月 1日
有 効 期 限:2027年 6月30日



エコマーク商品類型 No.140 認定基準書

飲食品、化粧品、家庭用品などの容器包装 Version1.17

分類 D. PET ボトル(容器)

1. 認定基準制定の目的

家庭から出るごみの約 60%(容積比)を占める容器包装廃棄物の削減は、持続可能な社会の構築に向けた大きな課題の一つである。また昨今では、海洋プラスチックごみ汚染やプラスチックの資源循環が世界共通の政策課題となるなか、不適正に投棄された PET ボトルの処理が各国で課題となっている。国内の PET ボトル業界においては、3R 推進に向けた自主行動計画を策定し、軽量化やリユースボトルの調査・研究、使用後の回収率およびリサイクル率の向上、使用済 PET ボトルの水平リサイクル(ボトル to ボトル)のほか、植物由来 PET 樹脂の使用に取り組んでいる。国内の PET 樹脂のマテリアルフロー(2018 年年度)(PET ボトルリサイクル推進協議会)によると、PET 樹脂生産・輸入量約 157 万トンのうち約 74 万トンが PET ボトルの原料として使われており、そのうち 7.3 万トンは再生 PET 樹脂が使用されている現状にある。飲料事業者では、2030 年までの目標として、再生 PET 樹脂の使用や植物由来 PET 樹脂の使用割合の目標値を公表するところが増えており、PET ボトルの設計においては、3R の取り組みが統合的に進められるようになった。

これまで、本商品類型における PET ボトルの認定基準を「D.軽量 PET ボトル」、「E.再生材料を使用した PET ボトル」および「F.植物由来プラスチックを使用した PET ボトル」の 3 つに分類していたが、今回の基準改定では、総合的に評価ができるように「D.PET ボトル(容器)」に統合することとした。

2. 適用範囲

「資源の有効な利用の促進に関する法律」に基づき政令指定された PET ボトル(指定 PET ボトル)、およびそのプリフォーム。

3. 用語の定義

耐熱用ボトル	高熱殺菌で、90℃程度まで耐えられるようになっている PET ボトル。口部が結晶化により白色になっている。
耐圧用ボトル	炭酸ガス入り飲料用 PET ボトル。中身の炭酸ガスによる内圧力に耐えられるように設計されている。
無菌充填用ボトル	無菌環境下で中身が常温充填される PET ボトル。
再生プラスチック	高分子物質を主成分とする再生材料。マテリアルリサイクルの過程で、ポリマーと分別することのできない可塑剤などの添加剤が混合している再生材料も再生プラスチックとする。
再生材料	プレコンシューマ材料またはポストコンシューマ材料またはそれらの混合物。

プレコンシューマ材料	製品を製造する工程の廃棄ルートから発生する端材などの材料または不良品であり、収集及び分別などの再生工程を経た材料。ただし、原料として同一の工程(工場)内でリサイクルされるものは除く。
ポストコンシューマ材料	製品として使用された後に、廃棄された材料または製品。
プラスチック	単一もしくは複数のポリマー材料と、特性付与のために配合された添加剤、充填材等からなる材料。
ポリマー	プラスチック中の主な構成成分である高分子材料。
バイオマス	もともと、生態学で生物(bio)の量(mass)を示す用語である。本認定基準では、化石燃料を除く、動植物に由来する有機物である資源のことをいう。
バイオマスプラスチック	原料として植物などの再生可能な有機資源を使用するバイオベース合成ポリマーからなるプラスチックで、原料として植物を使用するプラスチックは、植物由来プラスチックともいう。なお、ポリエチレン(PE)、ポリエチレンテレフタレート(PET)などがある。 ※ISO16620-2 または ASTM D6866 に規定される ¹⁴ C 法によるバイオベース炭素含有率が確認できるもの。
バイオベース合成ポリマー	全面的または部分的にバイオマス資源を原料として、化学的および／または生物学的工業プロセスによって得られるポリマー。ISO 16620-1 3.1.4 に定義される biobased synthetic polymer を指す(原文 polymer obtained through chemical and/or biological industrial process(es) Wholly or partly from biomass resources)。
バイオベース合成ポリマー含有率	製品(または認定基準で指定する部分)に占めるバイオベース合成ポリマー中のバイオマス資源由来部分の割合。でんぷん等の天然ポリマーは含まれない。ISO 16620-1 3.1.5 に定義される biobased synthetic polymer content を指す(原文 biobased synthetic polymer content: amount of biobased synthetic polymer present in the product)。
処方構成成分	製品に特性を付与する目的で、意図的に加えられる成分をいう。製造プロセス上、不可避免的に混入する不純物成分は含まない。

4. 認定の基準と証明方法

各基準項目への適合の証明については、付属証明書および関連書類を提出すること。

なお、本認定基準で中間製品としてエコマーク認定を受けているボトル本体(プリフォームを含む)に、ラベル、キャップを組み合わせた最終製品として申込む場合は、基準項目のうち 4-1-1.(1)、および 4-1-2.(4)(5)(7)(8)のボトル本体に関する証明方法は、ボトル本体のエコマーク認定番号を提示することで証明に代えることができる。

4-1. 環境に関する基準と証明方法

4-1-1. 共通基準と証明方法

(1) ボトルの軽量化率、ボトルにおける再生 PET の重量割合、植物由来 PET(バイオベース合

成ポリマー含有率)の重量割合、キャップ・ラベルの環境対応を下式によって算出した総合評価値が 60 以上であること。

$$\text{総合評価値} = \boxed{\text{A-1}} + \boxed{\text{A-2}} + \boxed{\text{A-3}} + \boxed{\text{B}} + \boxed{\text{C}}$$

A. ボトル																																																
A-1 ボトルの軽量化率																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>2004 年度ボトル重量(表 1)比: x</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20% ≤ x < 25%</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>25% ≤ x < 28%</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>28% ≤ x < 40%</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>40% ≤ x</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>		2004 年度ボトル重量(表 1)比: x	ポイント	20% ≤ x < 25%	40	25% ≤ x < 28%	50	28% ≤ x < 40%	60	40% ≤ x	70																																					
2004 年度ボトル重量(表 1)比: x	ポイント																																															
20% ≤ x < 25%	40																																															
25% ≤ x < 28%	50																																															
28% ≤ x < 40%	60																																															
40% ≤ x	70																																															
<p>表 1. ボトルの軽量化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>サイズ [mL]</th> <th>2004 年度 ボトル重量 [g]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">清涼飲料</td> <td rowspan="3">耐熱</td> <td>350</td> <td>25.1</td> </tr> <tr> <td>500</td> <td>27.5</td> </tr> <tr> <td>1,500</td> <td>55.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">耐圧</td> <td>500</td> <td>31.1</td> </tr> <tr> <td>1,500</td> <td>48.3</td> </tr> <tr> <td>無菌</td> <td>500</td> <td>25.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,000</td> <td>51.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">酒類</td> <td rowspan="2">酒類</td> <td>2,700</td> <td>89.9</td> </tr> <tr> <td>4,000</td> <td>138.9</td> </tr> <tr> <td>みりん</td> <td>1,000</td> <td>36.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1,800</td> <td>78.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">しょうゆ</td> <td rowspan="3">しょうゆ</td> <td>500</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>33.0</td> </tr> <tr> <td>1,800</td> <td>77.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">しょうゆ加工品</td> <td>500</td> <td>26.6</td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>38.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) PET ボトルリサイクル推進協議会が定める 2004 年度ボトル重量による。 *2) 複数の用途区分に該当するボトル(耐熱圧など)にあつては、2004 年度ボトル重量が低い用途区分を適用する。 *3) 中間サイズにあつては、同用途の主要 17 種の 2004 年度ボトル重量から按分して、みなしの 2004 年度ボトル重量を算出すること。</p>		用途	サイズ [mL]	2004 年度 ボトル重量 [g]	清涼飲料	耐熱	350	25.1	500	27.5	1,500	55.7	耐圧	500	31.1	1,500	48.3	無菌	500	25.2		2,000	51.7	酒類	酒類	2,700	89.9	4,000	138.9	みりん	1,000	36.2		1,800	78.2	しょうゆ	しょうゆ	500	25.0	1,000	33.0	1,800	77.0	しょうゆ加工品	500	26.6	1,000	38.5
用途	サイズ [mL]	2004 年度 ボトル重量 [g]																																														
清涼飲料	耐熱	350	25.1																																													
		500	27.5																																													
		1,500	55.7																																													
	耐圧	500	31.1																																													
		1,500	48.3																																													
		無菌	500	25.2																																												
	2,000	51.7																																														
酒類	酒類	2,700	89.9																																													
		4,000	138.9																																													
	みりん	1,000	36.2																																													
	1,800	78.2																																														
しょうゆ	しょうゆ	500	25.0																																													
		1,000	33.0																																													
		1,800	77.0																																													
	しょうゆ加工品	500	26.6																																													
		1,000	38.5																																													
A-2 再生 PET の使用																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>再生 PET の重量割合: y</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5% ≤ y < 25%</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>25% ≤ y < 50%</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>50% ≤ y < 75%</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>75% ≤ y</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>		再生 PET の重量割合: y	ポイント	5% ≤ y < 25%	30	25% ≤ y < 50%	50	50% ≤ y < 75%	60	75% ≤ y	70																																					
再生 PET の重量割合: y	ポイント																																															
5% ≤ y < 25%	30																																															
25% ≤ y < 50%	50																																															
50% ≤ y < 75%	60																																															
75% ≤ y	70																																															
A-3 バイオ PET の使用																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>バイオ PET(バイオベース合成ポリマー含有率): z</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5% ≤ z < 10%</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>10% ≤ z < 20%</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>20% ≤ z < 30%</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>30% ≤ z</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) $\boxed{\text{A-2}}$ または $\boxed{\text{A-3}}$ を適用する場合においては、同等ボトル(自社の同用途・サイズの直近のボトル)の重量を超えないこと。</p>		バイオ PET(バイオベース合成ポリマー含有率): z	ポイント	5% ≤ z < 10%	30	10% ≤ z < 20%	50	20% ≤ z < 30%	60	30% ≤ z	90																																					
バイオ PET(バイオベース合成ポリマー含有率): z	ポイント																																															
5% ≤ z < 10%	30																																															
10% ≤ z < 20%	50																																															
20% ≤ z < 30%	60																																															
30% ≤ z	90																																															
B. キャップの環境対応																																																
(いずれかを選択)																																																
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>軽量化(自社同等製品の従来比)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>キャップにおけるバイオ PE、バイオ PP (バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 25% 以上</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		軽量化(自社同等製品の従来比)	10	キャップにおけるバイオ PE、バイオ PP (バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 25% 以上	20																																											
軽量化(自社同等製品の従来比)	10																																															
キャップにおけるバイオ PE、バイオ PP (バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 25% 以上	20																																															
C. ラベルの環境対応																																																
(いずれかを選択)																																																
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>薄肉化、ラベルのサイズの縮小化(自社同等製品の従来比)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ラベルにおける再生プラスチックの重量割合 25%以上、またはバイオマスプラスチック(バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 10%以上</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>ラベルレス</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>		薄肉化、ラベルのサイズの縮小化(自社同等製品の従来比)	10	ラベルにおける再生プラスチックの重量割合 25%以上、またはバイオマスプラスチック(バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 10%以上	20	ラベルレス	30																																									
薄肉化、ラベルのサイズの縮小化(自社同等製品の従来比)	10																																															
ラベルにおける再生プラスチックの重量割合 25%以上、またはバイオマスプラスチック(バイオベース合成ポリマー含有率)の重量割合 10%以上	20																																															
ラベルレス	30																																															

【証明方法】

$\boxed{\text{A-1}}$ ~ $\boxed{\text{C}}$ の証明方法は、別紙 1 に従うこと。

(2) 申込商品の製造にあたって、最終製造工程を行う工場が立地している地域の大气汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、有害物質の排出などについて、関連する環境法規および公害防止協定など(以下、「環境法規等」という)を順守していること。

また、申込日より過去 5 年間の環境法規等の順守状況(違反の有無)を報告すること。

なお、違反があった場合には、すでに適正な改善をはかり再発防止策を講じ、以後は関連する環境法規等を適正に順守していること。

【証明方法】

最終製造工程を行う工場が立地している地域の環境法規等を順守していることに関し、申込製品を製造する事業代表者もしくは当該工場長が発行する証明書(環境法規等の名称一覧の記載または添付)を提出すること。

また、過去5年間に行政処分、行政指導などの違反の有無を報告し、違反があった場合には、以下のa.およびb.の書類を提出すること。

- a. 違反事実について、行政機関などからの指導文書(改善命令、注意なども含む)、およびそれらに対する回答書(原因、是正結果などを含む)の写し(一連のやりとりがわかるもの)
- b. 環境法規等の順守に関する管理体制についての次の1)~5)の資料(記録文書の写し等)
 - 1) 工場が立地している地域に関する環境法規等の一覧
 - 2) 実施体制(組織図に役割等を記したもの)
 - 3) 記録文書の保管について定めたもの
 - 4) 再発防止策(今後の予防策)
 - 5) 再発防止策に基づく実施状況(順守状況として立入検査等のチェック結果)

4-1-2. 構成物に関する基準と証明方法

以下(3)~(9)項は、申込商品の構成物(ボトル(プリフォームを含む)、ラベル、キャップのうち申込範囲に含まれるもの)のうち、各項に指定する[適用構成物]に適用する。

- (3) 使用する印刷インキについて、印刷インキ工業連合会「印刷インキに関する自主規制(NL規制)」で規制される物質を処方構成成分として添加しないこと。[適用構成物:ラベル、キャップ]

【証明方法】

NL規制に適合していることを付属証明書に記載すること。

- (4) プラスチック材料は、ポリマー骨格にハロゲンを含むプラスチックを処方構成成分として添加しないこと。[適用構成物:PET ボトル本体、ラベル、キャップ]

【証明方法】

プラスチック材料について、ポリマー骨格へのハロゲン元素の添加の有無を付属証明書に記載すること。

- (5) プラスチック材料に使用する可塑剤、色材、安定剤、滑剤などのプラスチック添加剤は、食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度などに従うこと。[適用構成物:PET ボトル本体、ラベル、キャップ]

【証明方法】

プラスチック材料に使用する可塑剤、色材、安定剤、滑剤などのプラスチック添加剤が、食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度などに従っていることについて、ポジティブリストに登録されていることの証明書(整理番号・物質名・CAS RN など)を代表 1 点のプラスチック添加剤について提出すること。

- (6) 食品容器に再生プラスチック材料を使用する場合は、厚生労働省「食品用器具及び容器包装の製造に用いる合成樹脂の原材料としてのリサイクル材料の使用に関する指針」について(令和 6 年 3 月 28 日付け厚生食基発 0328 第 7 号・厚生食監発 0328 第 7 号厚生労働省健康・生活衛生局食品基準審査課長、食品監視安全課長連名通知)に基づいて安全性の確保を図っていること。[適用構成物:PET ボトル本体、キャップ]

【証明方法】

厚生労働省「食品用器具及び容器包装の製造に用いる合成樹脂の原材料としてのリサイクル材料の使用に関する指針」に基づいて安全性の確保を図っていることを示す文書を提出すること。

- (7) 使用する接着剤は、日本接着剤工業会の「食品包装材料用接着剤等に関する自主規制(NL 規制)」に従うこと。[適用構成物:ラベル]

【証明方法】

NL 規制に適合していることを付属証明書に記載すること。

- (8) 「食品、添加物等の規格基準(昭和 34 年厚生省告示第 370 号)」に定める有害物質の要件を満足すること。[適用構成物:PET ボトル本体、ラベル、キャップ]

【証明方法】

該当する有害物質の要件を満足することについて、管理方法(手順)の説明、および試験結果を代表 1 点のプラスチック材料について提出すること。

- (9) 「指定 PET ボトルの自主設計ガイドライン(PET ボトルリサイクル推進協議会)」に適合すること。[適用構成物:PET ボトル本体、ラベル、キャップ]

【証明方法】

指定 PET ボトルの自主設計ガイドラインの評価基準に則って評価した結果を提出すること。

4-2. 品質に関する基準と証明方法

- (10) 品質は、業界の自主的な規格または自社規格を満足するものであること。

【証明方法】

該当規格への適合を示す文書を提出すること。

5. 配慮事項

認定の要件ではないが、製造にあたっては以下に配慮することが望ましい。なお、各項目の対応状況を付属証明書に記載すること。

- (1) 再生プラスチックまたはバイオマスプラスチックが使用される場合には、配合割合などを表示していること。
- (2) 申込製品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクルにおける温室効果ガス排出量を地球温暖化係数に基づき二酸化炭素相当量に換算して算定した定量的環境情報が開示されていること(複数型式を一括して申込み場合は代表型式による算定でも可とする)。定量的環境情報は、カーボンフットプリント(ISO 14067)、ライフサイクルアセスメント(ISO 14040 および ISO 14044)または経済産業省・環境省作成の「カーボンフットプリント ガイドライン」等に整合して算定したものであることを説明できること。なお、定量的環境情報を開示する媒体(算定報告書等の URL)をエコマークウェブサイトの商品情報として公開する。

6. 商品区分、表示など

- (1) 商品区分(申込単位)はブランド名毎および用途毎とする。なお、申込単位ごとに異なるボトルのサイズを一括して申請することも可とする。
- (2) エコマークを容器包装に表示する場合には、容器包装がエコマーク認定商品であることがわかるように表示し、内容物とエコマークが無関係であることをわかるようにすること。
- (3) 原則として、ボトル本体などにエコマークを表示すること。なお、エコマーク商品を保有するエコマーク使用契約者においては、これまでどおりの表示および認定番号を記載することも可とする。



エコマーク認定ボトル



Eco Mark Certified

(表示方法に関する注記)

- * ロゴマークの表示においては、エコマーク認定番号(8桁の数字)または使用契約者名を表記すること。
- * 「エコマーク使用の手引」2.(2)項に準じて、「エコマーク商品」などを表記してもよい。
「エコマーク商品」、「#エコマーク」、「www.ecomark.jp」、「Eco Mark Certificate」
- * 環境省「環境表示ガイドライン(https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/eco_label/guideline/)」などに準拠して、ロゴマークと関連付けて認定商品の環境主張を表記してもよい。

* その他、上記に記載のない事項は「エコマーク使用の手引」に従うこと。
(<https://www.ecomark.jp/office/guideline/guide/>)

[発行] 公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局
<https://www.ecomark.jp/nintei/140.html> ✉ sinsei@ecomark.jp

[制改定履歴]

2013年10月 1日	分類 C.~E.の追加制定 (Version1.7)
2015年 6月 1日	改定(分類 A.~D.食品容器への再生プラスチック材料使用に関する厚生労働省ガイドライン追加 Version1.8)
2016年 3月15日	有効期限延長
2016年 6月 1日	分類 G.および H.の追加制定 (Version1.9)
2016年 9月16日	分類 F の追加制定 (Version1.10)
2017年 2月 1日	改定(分類 D 4-1-1(1)、5、分類 E 5、分類 F および H 3 Version1.11)
2019年 4月 1日	改定(5.(2)(3) マーク表示)
2019年11月28日	改定(分類 A 4-2.(18)追加 Version1.12)
2020年11月 1日	改定 (Version1.13)、有効期限延長
2022年12月15日	改定 (Version1.14)、バイオマスプラスチックの基準改定
2023年 2月 1日	改定 (Version1.15)、分類 K の追加制定、I、J 等の部分改定
2024年 8月 1日	改定 (Version1.16)、分類 A-1:4-2(8)、A-2:4-1(8)、B:4-2(12)、C:4-1(7)、D:4-1-2(6)、G、I および J:4-1(6) の部分改定
2025年 4月 1日	改定 (Version1.17)、5.(2)追加
2027年 6月30日	有効期限

本商品類型の認定基準書は、必要に応じて改定を行うものとする。

別紙 1 4-1-1.(1)の証明方法

A-1 ボトルの軽量化

【証明方法】

証明書にボトルの用途・サイズ・重量(ラベル、キャップは重量計算に含めない)をそれぞれ記載すること。併せて、ボトルの概要が分かる資料(仕様書等)を提出すること。

A-2、B、C 再生プラスチック使用における証明方法

【証明方法】

PET ボトル本体(またはキャップ、ラベル)の重量と再生プラスチックの重量割合についての証明書、および原料供給事業者が発行する原料供給証明書を提出すること。

A-3、B、C バイオマスプラスチック使用における証明方法

【証明方法】

以下 a)～c)の全てを提出すること。

a) PET ボトル本体(またはキャップ、ラベル)のバイオベース合成ポリマー含有率を計算した証明書を提出すること。そのうちバイオマスプラスチック(原料樹脂)は、ISO16620-2 または ASTM D6866 に規定される ^{14}C 法によるバイオベース炭素含有率の測定結果の値と成分組成を用いて、ISO16620-3 に規定される方法により算出したバイオベース合成ポリマー含有率の測定結果を記載すること。なお、測定結果と規格上のバイオベース合成ポリマー含有率に 10%を超える乖離がある場合には、その理由も説明すること。添付書類として、バイオベース炭素含有率の測定結果を提出すること。

また、認定後のバイオベース合成ポリマー含有率の適正な維持について、原料樹脂供給事業者(販売事業者を含む)が発行する以下のいずれかの証明書を提出すること。

- ・バイオベース炭素含有率の測定を定期的実施すること、および測定結果をエコマーク事務局の要請に応じて開示できることの説明文書
- ・バイオベース合成ポリマー含有率の管理について、第三者による監査または認証を受けていることの証明書

b) プラスチック製造に原料として使用するバイオマスの持続可能性については、**別表 1(a)**「バイオマスプラスチック(原料樹脂)の持続可能性に関するチェックリスト」に適合するとともに、サプライチェーンを把握していること。ただし、バイオマス原料の持続可能性について第三者による監査または認証(プラスチック等の持続可能性を検証する国際認証制度など)を受けている場合には、その結果を**別表 1(a)**の提出に代えることができる。具体的には、バイオマス原料の素性(栽培地(国、州、市等)または廃棄物・副産物等の発生過程など)および(原料樹脂)製造までの一連の製造工程のフロー図(基礎化学品(モノマー)の製造、ポリマー製造等の関係する事業者名を明らかにすること)、およびチェックリストまたは第三者による監査または認証を受けていることを示す資料を提出すること。

なお、エコマークで認定事例のないバイオマスプラスチックやバイオマス原料を使用した製品のエコマーク申請にあたっては、エコマーク事務局から申請者(もしくは樹脂供給者等)に原料等に関する情報提供(**別表 1(b)**)を要請する場合がある。

c) バイオマスプラスチック(原料樹脂)について、原料調達から廃棄・リサイクルに至るまでの温室効果ガスの排出量(CO_2 換算)が、代替しようとする従来の樹脂と比較して増加しないことを示す第三者によるライフサイクルアセスメント(LCA)の結果を提出すること(LCAの評価結果とともに算定条件を示すこと。プラスチックの持続可能性を検証する国際認証制度などにおいて LCA の検証を受けた場合には、そのデータを用いるこ

とでもよい。また、原料や製造工程(工場)が同じ場合には、学術雑誌等で発表された論文を用いることでもよい)。

B、C キャップ・ラベルの環境対応(軽量化、薄肉化など)における証明方法

【証明方法】

キャップ・ラベルの軽量化、ラベルの薄肉化・サイズの縮小化については、自社同等製品などの従来製品との比較において、プラスチックの重量割合が削減されていることを示す資料を提出すること。また、ラベルレスについては、製品の外観図などを提出すること。

別表 1(a) バイオマスプラスチック(原料樹脂)の持続可能性に関するチェックリスト

No	目的	要求(実現されなくてはならない項目)	対象	実現	実施方法 (該当する全ての項目に <input checked="" type="checkbox"/>)
1	地球温暖化の防止, 自然生態系の保全	植物を栽培する主たる農地は、2008年以降に生物多様性の価値が高い土地、炭素蓄積量の多い土地(森林・泥炭地など)からの土地改変が行われていないか。	農地	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 残渣・副産物または廃棄物に該当するため、本項は適用しない*	<input type="checkbox"/> 現地の土地改変に係る法令を確認した。 <input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングにより現地の実態を把握した。 <input type="checkbox"/> 植物の調達に関するガイドラインを定め、公表している。または、独立した第三者によるガイドラインに準拠している。 ・ガイドライン名 [] ・公表場所 [] <input type="checkbox"/> 植物の調達に関する独立した第三者の認証制度を併用している。 ・認証制度名 [] <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) []
2	生態系の保全	遺伝子組み換え農作物を原料とする場合、安全性の確保について評価を行ったか。	農地	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 遺伝子組み換え農作物は不使用のため本項は適用しない <input type="checkbox"/> 残渣・副産物または廃棄物に該当するため、本項は適用しない*	<input type="checkbox"/> 現地の遺伝子組み換え農作物に係る法令を確認した。 <input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングにより現地の実態を把握した。 <input type="checkbox"/> 植物の調達に関するガイドラインを定め、公表している。または、独立した第三者によるガイドラインに準拠している。 ・ガイドライン名 [] ・公表場所 [] <input type="checkbox"/> 植物の調達に関する独立した第三者の認証制度を併用している。 ・認証制度名 [] <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) []
3	土地の酸性化・富栄養化, 水質汚染の防止	植物の主たる栽培地における肥料・農薬の使用状況を把握したか。 「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」(POPs 条約)で規制されている農薬が使用されていないか。	農地	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 残渣・副産物または廃棄物に該当するため、本項は適用しない*	<input type="checkbox"/> 現地の肥料・農薬に係る法令を確認した。 <input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングにより現地の実態を把握した。 <input type="checkbox"/> 植物の調達に関するガイドラインを定め、公表している。または、独立した第三者によるガイドラインに準拠している。 ・ガイドライン名 [] ・公表場所 [] <input type="checkbox"/> 植物の調達に関する独立した第三者の認証制度を併用している。 ・認証制度名 [] <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) []

No	目的	要求(実現されなくてはならない項目)	対象	実現	実施方法 (該当する全ての項目に☑)
4	適正な水利用	植物の主たる栽培地における水の使用状況を把握したか。	農地	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 残渣・副産物または廃棄物に該当するため、本項は適用しない*	<input type="checkbox"/> 現地の水使用に係る法令(取水制限など)を確認した。 <input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングにより現地の実態を把握した。 <input type="checkbox"/> 植物の調達に関するガイドラインを定め、公表している。または、独立した第三者によるガイドラインに準拠している。 ・ガイドライン名 [] ・公表場所 [] <input type="checkbox"/> 植物の調達に関する独立した第三者の認証制度を併用している。 ・認証制度名 [] <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) []
5	再生資源の利用,食糧との競合回避	バイオマスプラスチック(原料樹脂)の粗原料の一部として、現地の再生資源が入手可能な場合、優先的に使用したか。	原料樹脂	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 再生資源が入手できないため本項の適用外	使用する再生資源名 [] 再生資源の発生量・割合 []
6	地球温暖化の防止	粗原料の主たる製造工場において、発酵などにより地球温暖化係数の高いメタンを排出する場合、その処理状況を把握したか。	粗原料製造工場	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ/ <input type="checkbox"/> 本項の適用外(左記に該当しない)	<input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングにより現地の実態を把握した。 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) []
7	非化石エネルギー源、再生可能エネルギー源の利用	栽培から原料樹脂製造までの工程において、非化石エネルギー源(例えば、バガスやバイオガス、オフガスなど)や再生可能エネルギーを出来る限り活用したか。	製造工場	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ	エネルギー名と活用方法 []
8	法令順守	バイオマスプラスチック(原料樹脂)製造は、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、有害物質の排出などについて、関連する環境法規および公害防止協定など法令を順守しているか。	樹脂製造工場	<input type="checkbox"/> はい/ <input type="checkbox"/> いいえ	モノマー製造事業者・工場名 [] 樹脂製造事業者・工場名 []

* EU の再生可能エネルギー指令(RED)による残渣・副産物(Residues)または廃棄物(Waste)

別表 1(b) 新たなバイオマスプラスチックまたはバイオマス原料を使用した製品の申請に係る
 情報提供シート

年 月 日

提出先：公益財団法人日本環境協会

エコマーク事務局 宛

会社名： _____

部 署： _____

記載者名： _____

E-mail : _____

1. エコマーク申請商品に使用されるバイオマスプラスチックに関する情報

項目	記入欄
樹脂の種類(例：PE)	
構造式	
主な用途(成型品・繊維)	
バイオマスプラスチックの上市 と生産量	<input type="checkbox"/> 上市済み(<input type="checkbox"/> 国内/ <input type="checkbox"/> 海外) <input type="checkbox"/> 未発売(発売予定時期 年 月頃) 生産量(予定・推測を含む) トン(年)
樹脂を製造する事業者名(およ び URL) (提案者以外の事業者を含めて、提案 樹種のバイオマスプラスチックの製造 事業者名を記載して下さい)	
代替する樹脂(化石資源由来の 樹脂)	
原料から樹脂製造までの一連 の製造工程のフロー図 (原料採取からモノマー、樹脂製造 までの各工程の説明、発酵工程な どの有無等)	別紙可
全面的バイオマス/部分的バイ オマス	<input type="checkbox"/> 全面的バイオマス(バイオベース合成ポリマー含有率 100%) <input type="checkbox"/> 部分的バイオマス → 当該樹脂中に配合できる最大のバイ オベース合成ポリマー含有率【 %】
マスバランス(MB)方式の有無	<input type="checkbox"/> 実配合 / <input type="checkbox"/> MB 方式 ※MB 方式の場合には、本取扱方針の対象外です。
生分解性能の有無	<input type="checkbox"/> あり / <input type="checkbox"/> なし
使用後の処理方法 代替する樹脂(化石資源由来の 樹脂)と比較して、廃棄・リサイ クル等の課題はあるか。(想定さ れる廃棄方法等)	

2. バイオマス原料の素性

項目	記入欄
バイオマス原料(植物名など)の 種類	

項目	記入欄
栽培地(国、州、市等)、または廃棄物・副産物等の場合には発生過程等	
当該バイオマス原料の生産量または発生量	
当該バイオマス原料の主な用途(主産物または副産物のどちらに該当するか。)	
栽培地の状況(植物の場合、どのような土地で栽培されているのか。(例:泥炭地))	
今後、当該バイオマスプラスチック生産が拡大した場合、原料への影響はあるか。 (他用途への影響、原料となる植物栽培の急拡大による他への影響の可能性など)	
食糧との競合はないか。	
再生資源は利用可能か。 (再生資源の場合、発生源、収集方法、EU RED での扱いなど)	

3. バイオマス原料の持続可能性に関する情報

項目	記入欄
原料に関する持続可能性の認証制度またはイニシアティブ等(例:RSPO、ISCC)の存在の有無および取得状況(ある場合は具体的な名称と基準内容)	
原料の栽培に関してNGOや研究者から持続可能性の観点で指摘されている点があるか。 (ある場合には、具体的な内容、URL)	
その他、当該バイオマス原料について懸念となる部分はあるか。	

4. その他

項目	記入欄
同じバイオマス原料を利用して製造されたバイオマスプラスチックの存在有無(ある場合には、樹脂名を記載)	
その他	

※その他、製造事業者の会社概要や関連する資料を添付して下さい。

本情報提供シートでご提出いただいた情報は、エコマークの申請書類の一つとして、エコマーク事務局および関連委員会限りで取扱います。なお、審査委員会は、提出されたチェックシートの情報にもとづきバイオマスプラスチックの持続可能性を精査しますが、必要に応じて追加調査や、審査委員会内に設置された評価パネルに照会を行うことがあります。また通常の審査よりも審査期間が長くなる場合があります。